

8

総合問題

■学習日

/

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈川上弘美「あるようなないような」より〉

□(1) 線①～⑤のカタカナを漢字に直して書きなさい。

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩
⑪	⑫
⑬	⑭
⑮	⑯
⑰	⑱
⑲	⑳
㉑	㉒
㉓	㉔
㉕	㉖
㉗	㉘
㉙	㉚
㉛	㉜
㉝	㉞
㉟	㊱
㊲	㊳
㊴	㊵
㊶	㊷
㊸	㊹
㊺	㊻
㊼	㊽
㊾	㊿

(2) 線①「湧いて来る」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「湧いて」と「来る」は、どのような文節相互の関係になっていますか。
書いて答えなさい。

の関係

□②「湧いて」の「て」と文法上の性質が同じものを本文中の 線ア～エ から二つ選び、記号で答えなさい。

□③【 】の部分から、転成名詞を一つ探し、書き抜いて答えなさい。

□④ 線②「怖く」、③「さまざま」のそれぞれの 語幹、未然形、連用形、④終止形、⑤連体形、⑥仮定形を書いて答えなさい。

③	②
④	⑤
⑥	⑦
⑧	⑨
⑩	⑪
⑫	⑬
⑭	⑮
⑯	⑰
⑱	⑲
㉑	㉒
㉓	㉔
㉕	㉖
㉗	㉘
㉙	㉚
㉛	㉜
㉝	㉞
㉟	㊱
㊲	㊳
㊴	㊵
㊶	㊷
㊸	㊹
㊺	㊻
㊼	㊽
㊾	㊿

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

空の夕焼けが毎日つづいた。けれどもそれはつい二、三週間まえまでのようなやけただれたまっかな空ではなかった。底には快く快活な黄色をかくしてうわだけ紅であった。あすの暑さで威嚇する夕焼けではなく、あすの快晴を約束する夕ばえであった。北西の空にあたって、ごく近くのある丘のくぼみの間から、富士山がそのまっ白な頭だけを現して、夕ばえのなかでくつきり光っていた。俗悪なまで有名なこの山は、ただそのごく小部分しか見えないということによって、その^①本来の美を保ちえていた。この間うちまでは重なり合った夕雲のかげになって、それらの雲の一部かあるいは山かと怪しまれた西方の地平に連なる灰黒色な一列は、今見れば、どこか遠くの連山であることが確かになった。きょうもまたむだに費やしたという平凡な悔恨が、毎日この夕ばえを仰ぐたびごとに、彼にはげしく瞬間的にわき上がるのであった。地の上の足もとを見ると、彼の足場である土橋の下を、みぞの水が夕ばえの空を反映して太い朱線になって光り、流れていた。

田の面には、風が自分の姿を、そこになぎさのような曲線で描きだしながら、ゆるやかに^{*ぜんどう}蠕動して進んでいた。それは涼しい夕風であった。稲田はまだ黄ばむというほどではなかったけれども、花はすでに実になっていた。そうしていなごがそれらの少しうなだれた穂の間で、少しづつ生まれ始めていた。へびいちごという赤い丸い草の実のころがっている田のあぜには、彼の足もとからいなごが時おり飛びはねた。すると彼の散歩の供をしている二匹のいぬは、より早くそれを見出すやいなや、彼らの前足でそれを押しおさえると、そこに半死半生で横たわっているいなごをうまさうに食ってしまった。彼らの一匹はそれを見出す点で、他の一匹よりも敏捷^{びんぎやく}であった。しかし、前足を用いてとらえる段になると、別の一匹のほうがかえって機敏であった。また一匹のほうはとり逃がしたやつをすぐあきらめるらしかったけれども、他の一匹はなかなか執拗^{しつよう}に稲田のなかまで足をどぶに踏み込んで追い込

25

20

15

10

5

む。彼らにもよくみればおのおの違った性質をそなえているのが彼をおもしろがらせ、かついつそう彼ら可愛させた。稲の穂がだんだん頭をたれてゆくにつれて、いなごの数は一時に非常にふえていた。いぬは自分からさきに立って彼を導くようにしながら田のほうへ毎日彼を誘い出した。彼は目の前のいなごを見ると、時々、それを捕らえていぬどもに食わせてやりたくなった。それで指を広げた手で、その虫をおさえようとした。いぬどもは彼らの主人がその身構えを見ると主人の意志がわかるようになったとみえて、自分のとらえかかっているのを途中でやめて、主人の手つきを目で追うて、主人の獲物が与えられるのを待っているのであった。

^①彼はたいてい五度^①に一度ぐらいよりそれを捕らえることができなかった。ただもぎとれた足だけを握っていたりした。彼はいなごを捕らえるには、それに巧みでないほうのいぬにくらべてもずっとへたであった。それにもかかわらず、いぬどもはそんな事にまで主人の優越を信じて、主人を信頼しているらしかった。

^②、彼が虫をとり逃がしたむなししい手をひらいて見せると、いぬどもはいぶかしげに、主人の手の中と主人の顔をかわる見るくらべて、彼らは一様にその頭をかしげ、それから彼らの口の端を少しゆがめて、その可憐に輝く目で彼の顔を見上げた。それがさも主人の失敗に驚き失望しながら、けれどもなぜともなく主人に媚びているようであった。彼らいぬには、実に豊かな表情があった！ 彼らは幾度もその^②いたずらな期待の経験をしたがらも、^③自分たちよりも主人のほうがか虫を捕らえるにでも偉いはずだという信念を、決して失わないうしかなかった。彼のいなごを捕らえようとすると身構えと手つきとを見るごとに、彼らは彼ら自身がすでに成功しているも同然な虫を^{*はなづき}放擲して、主人の手つきを見つめたまま、いつまでもその恵みを待ちうけているのであった。彼はむなくひろげた手のひらで、^④しているいぬどもを愛撫^{あいぶ}していた。いぬはそれでも満足して尾を振った。彼にはそれが——いぬどもの無知な信頼が、またそれに報ゆることのできないことが、妙にせつなかつた。彼が人間同士の幾多の信頼にそむいてい

30

35

40

35

30

ることよりも、^③この純一な自分の帰依者に対しての申しわけなさは、彼には^④数層倍も以上に感じられた。彼は、彼らのあの特有な澄みきつた目つきで見上げられるのがせつなさに、^⑤、目の前の虫を捕らえようとする一種反射運動的な動作を^⑥ように、細心に努力するのであった。

〔佐藤春夫「田園の憂鬱」より〕

〔注〕蠕動＝虫のように、ふるえ動くこと。

放擲＝打ち捨てること。

□(1) ^① ^⑤に入る最も適切なことばをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア そうして イ やはり
エ ついには オ むしろ

①
②
③
④
⑤

(2) — 線①「本来の美」、②「いたずらな期待」を説明した文として最も

適切なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

□①
ア さすがに有名なだけはあると感じさせる美しさ。
イ どんな俗人にも一目でよくわかる種類の美しさ。
ウ 有名すぎることで見失われるものとの美しさ。
エ 有名になった俗悪さの中だけにある自然の美しさ。

□②
ア 無節操な期待。
イ 無意味な期待。
ウ 無批判な期待。
エ 無気力な期待。

①
②

□(3) 本文には次の一文が省略されています。入れるのに最も適切な場所を探

し、そのあとの一文の最初の五字を書き抜いて答えなさい。

「たぶん、色彩というものが誘う感激が、彼の病的になっている心をそ

いうふうに刺激したのであろう。」

□(4) ^①に入る最も適切なことばを本文中から漢字二字で探し、書き抜いて答えなさい。

□(5) — 線③「この純一な自分の帰依者」とは何を指していますか。本文中から四字で書き抜いて答えなさい。

□(6) ^②に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア 怠らない イ 試みない
ウ 急がない エ 忘れない

--

□(7) 「彼」の心境として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 雄大な自然の中にとけこめない自分を情けなく思い、いぬどもに憧れるような気持ち。

イ 雄大な自然をたのしみ、その中で心穏やかにいぬどもとたわむれ遊ぶ平安な気持ち。

ウ 雄大な自然を前に自分の卑小さを感じ、いぬどもとの交流になぐさめを感じる気持ち。

エ 二匹のいぬどもが心から自分を慕っていることに満足感とやすらぎを感じる気持ち。

オ 二匹のいぬどもにさえ、本当の優越を示せない自分をふがいなく感じている気持ち。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注)

マルキシズムⅡマルクス主義。

モルガンⅡアメリカの文化人類学者。人類の自然状態からの発展に

〈会田雄次「寛容の文化と不寛容の文化——『沈黙』を読んで』より〉

おける技術及び技術的要因の重要性を示し、進化論的な人類学理論を体系化した。

□(1) — 線①「だから」のあとに省略されていることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大地が動いていることを知れば坊主どもは反発して、心を一つにして団結するだろう

イ 大地が動いているといえば坊主どもは動揺し、畏怖を感じて屈服するだろう

ウ 新しい説を持ちこめば坊主どもはきつと混乱し、警戒して対応するだろう

エ 大地が動いているといえれば坊主どもはきつと軽蔑し、嘲笑して無視するだろう

☐

□(2) — 線②「かれをしてこういわせている」とありますが、「クレモーニ」のこの言葉は、どういう考えに基づくものですか。その最も根本となる

考えが、比喩を用いずに述べられている部分をこれより前の本文中から二十五字で探し、その最初と最後の四字を書き抜いて答えなさい。

□(3) ※ に入る最も適切な文を次から選び、記号で答えなさい。

ア 富士山は空の中にたえずその姿を現していることによって、はじめて崇高である

イ 富士山は湖に絶えず美しい姿をうつしていることによって、はじめて

崇高である

ウ 富士山は頂上にたえず白い雪を輝かせていることによって、はじめて崇高である

エ 富士山は裾野にたえず雲をたなびかせていることによって、はじめて崇高である

□(4)

□(4) □(ア)・□(B) に入ることわざを次から選ぶとすれば、あとのどの組み合わせが最も適切ですか。記号で答えなさい。

① 三つ子の魂百まで ② 人を見たら泥棒と思え

③ 泥棒を見て縄をなう ④ 袖すり合うも他生の縁

ア いとう イ あとう

ウ いとえ エ あとえ

☐

□(5)

□(5) — 線③「日本人の持つこの寛容性」にあてはまると考えられるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 有害な食品添加物などの規制のしかたが緩い。

イ 空きかんを道に捨てる人を見ても知らぬふりをする。

ウ 電車やバスの中に老人専用の席が設けてある。

エ キリスト教信者でもお祭りのみこしをかつぐ。

☐

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある時、都の鼠^{ねずみ}片田舎に下り侍^{はべ}りける。田舎の鼠ども、これを*いつきかしく事かぎりなし。これによつて田舎の鼠を召し具して*上洛す。しかもその住所は、都の*有徳者の蔵にてなむありける。*かるがゆゑに、食物足つて乏しき事なし。都の鼠申しけるは、「上方にはかくなむいみじき事のみ

おはすれば、いやしき田舎に住み習ひてなにかはし給ふべき。」など語り
 慰む所に、家主蔵に用ある事あつて、にはかに戸を開く。京の鼠はもとより
 ①案内者なれば、わが穴に逃げ入りぬ。田舎の鼠は、もとより無案内の事な
 れば、あわてさわぎて隠れ所もなく、からうじて命ばかり助かりける。その
 後田舎の鼠参会してこの由を語るやう、「*御辺はみやこを いみじき事の
 みありとのたまへど、ただ今の気づかひ ③一夜白髪といひつべく候。田舎に
 ては ④事足らぬことも侍れども、かかる気づかひなし」となむ ⑤申しける。
 そのごとく、いやしきものは ⑥上つかたの人にもなふ事なかれ。もしし
 ひてこれをともしなふ時は、*いたづがはしき事のみにあらず、たちまちわざ
 はひ出来すべし。

〔伊曾保物語〕より

(注) いつきかしづく＝大切に世話をする。 上洛す＝都に上る。

有徳＝裕福。 かるがゆゑに＝それ故に。

御辺＝あなた。 いたづがはしき事＝わずらわしい事。

□(1) — 線①「案内者」のここでの意味として最も適切なものを次から選び、
 記号で答えなさい。

- ア 都の作法をよく知っていること。
 イ 家主の性格をよく知っていること。
 ウ 蔵の中の様子をよく知っていること。
 エ 都の町の隅々までよく知っていること。

□(2) — 線②「いみじき事」とは具体的にはどんな事ですか。それが述べら
 れている部分を本文中から十一字で書き抜いて答えなさい。

□(3) — 線③「一夜白髪」とありますが、この場合どんなことを表現してい
 ますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 一夜で白髪になるほど悲しく寂しいこと。
 イ 一夜で白髪になるほど恐ろしいこと。
 ウ 一夜で白髪になるほど夜が長いこと。
 エ 一夜で白髪になるほど心配すること。

□(4) — 線④「事足らぬこと」が具体的に表していることを次から一つ選び、
 記号で答えなさい。

- ア 都のような蔵がないこと。
 イ 都のように危険がないこと。
 ウ 都のように有徳者がいないこと。
 エ 都のように物質が豊かでないこと。

□(5) — 線⑤「申しける」とは、誰が誰に申したのですか。書いて答えなさい。

が

□(6) — 線⑥「上つかたの人」は、この場合「いやしきもの」と対照させて
 いますが、どんな意味ですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 金持ちの人
 イ 上品な人
 ウ 京の人
 エ 身分の高い人

--